

ふわふわの猫

修行中のお坊さん

あるところに、まん丸くてふわふわとした白と黒とオレンジ色の毛の混じった、一匹の猫がいました。猫はおばあさんといっしょに2人きりで暮らしていました。

ある日猫は、おばあさんのために、薬を買いに行きたい、と思いました。おばあさんはいつも腰が悪いからです。

猫は思いました。

(だけど、ぼくにはお金がないし、人間の言葉だって話せない)

猫は困ってしまいました。そして、あきらめるしかありませんでした。

またある日、おばあさんの90歳のお誕生日に猫はケーキを買いに行きたいと思いました。

(だけど、ぼくにはお金もないし、人間の言葉だつてはなせない、それにどこへ行ったらケーキが売っているかさえわからない)

猫は困ってしまいました。そして猫は思いました。

(ぼくは一体おばあさんのために何ができるのでしょうか。ぼくは、おばあさんに恩返しをしたいのに)

なのに、猫は何一つ思いつく事ができません。猫は、困りました。

(ぼくには、おばあさんのために何ができるのか、わからない)

そうして暮らしていたある日、猫がおばあさんと庭で日向ぼっこをしていると、猫の背中をなでながらおばあさんがいいました。

「猫のミケさんや、お前がこの家に来て一年になるね、家にあなたが来てからは、どうも寂しい日が減りました。まん丸くてふわふわしていて、あなたは美しいわ、あなたがそばにいただけで、心が優しくなるわ。あなたが来てくれてよかったわ、いてくれるだけで幸せよ」

猫は、おばあさんの身体にほおをすり付けて、ゴロゴロと優しく鳴きました。猫は、おばあさんの横で寝転びながら、

(ぼくは、いったい何を悩んでいたんだっただかな)

ぼんやりとしながら、目をつむりました。眠る猫をおばあさんは優しくなで続けました。

猫はおばあさんとこれからもずっと仲良く暮らしていく夢を見ていました。